

イエジー・スコリモフスキ監督(監修)から
日本の皆さまへ

今年で10周年を迎えるポーランド映画祭。2012年の第一回から関わってきた私にとって、とても感慨深いものがあります。そんな記念すべき年でありながら、コロナ禍の影響で昨年に引き続き我が国からのゲスト参加は中止になってしまいました。ただ作品自体の魅力がそれによって減ずるわけではありません。こんな今だからこそ芸術の力が必要になります。多種多様なポーランド映画を存分にお楽しみください。そして来年こそはお会いできることを楽しみにしています。

イエジー・スコリモフスキ 



Photo Aneta & Filip Gęborscy

ポーランド映画祭 2021

FESTIWAL FILMÓW POLSKICH 2021

11/20(土)	10:30★ アンジェイ・ワイダ 私のインスピレーション	13:00 灰とダイヤモンド	15:30 私は決して泣かない	
11/21(日)	10:30 キェシロフスキ 短編プログラム	12:20 ふたりのペロニカ 4Kデジタルリマスター版	14:30 ソラリスの著者	16:00 イマジン
11/23(火・祝)	10:30 ふたりのペロニカ 4Kデジタルリマスター版	13:00 キェシロフスキ 短編プログラム	15:00★ アンジェイ・ワイダ 私のインスピレーション	
11/27(土)	10:30 灰とダイヤモンド	13:00★ アンジェイ・ワイダ 私のインスピレーション	15:00 キェシロフスキ 短編プログラム	16:50 ソラリスの著者
11/28(日)	10:30 私は決して泣かない	13:00 イマジン	15:30 ふたりのペロニカ 4Kデジタルリマスター版	

トークイベント!

- ★11/20(土)10:30
「アンジェイ・ワイダ 私のインスピレーション」
●上映前・ポーランド映画祭開幕挨拶
ウルシュラ・オスミツカさん(ポーランド広報文化センター所長)
- ★11/20(土)10:30 11/23(火・祝)15:00 11/27(土)13:00
「アンジェイ・ワイダ 私のインスピレーション」
●上映後トーク
久山宏一さん(ポーランド広報文化センター)

ポーランド文化情報!

- ◆スタニスワフ・レム・コレクション刊行開始
第1回配本「インヴィンシブル」
スタニスワフ・レム著
関口時正 訳/沼野充義 解説
発行:図書刊行会

「エデン」「ソラリス」からつらなるファースト・コンタクト三部作の傑作(旧邦題「砂漠の惑星」)の原典からの新訳。



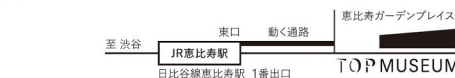
10. Edycja FESTIWAL FILMÓW POLSKICH 2021

10周年

ポーランド 映画祭 2021

当日料金:一般1,500円/シニア1,100円
大学生以下・障害者手帳をお持ちの方1,000円

●午前10時より1F受付にて各回の受付を開始致します。●ご購入されたチケットの変更・取り消しはできません。●ホール及び美術館内でのご飲食はご遠慮ください。
※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。



恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館ホール
TEL. 03-3280-0099(代表) www.topmuseum.jp
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分

2021.11.20[土]/21[日]/23[火・祝]/27[土]/28[日]

監修:イエジー・スコリモフスキ

東京都写真美術館ホール

主催: CULTURE.PL、ポーランド広報文化センター、スコピヤ・フィルム、マーメイドフィルム、VALERIA 後援: 駐日ポーランド共和国大使館 配給: マーメイドフィルム、コピア・フィルム 宣伝: VALERIA



www.polandfilmfes.com

10周年 ポーランド映画祭 2021

クシシュトフ・ケシロフスキ監督生誕80年記念



© ポーランド共和国内務省

クシシュトフ・ケシロフスキ Krzysztof Kieślowski

1941年、ワルシャワ生まれ。名門ウッチ映画大学で学び、66年に初の短編映画を手がける。以後ドキュメンタリーを中心に製作、79年の『アマチュア』でモスクワ国際映画祭金賞を受賞し国際的に注目される。大作『デカログ』(89-90)を経て発表した『ふたりのペロニカ』(91)と『トリコロール三部作』(93-94)によってカンヌ、ヴェネツィア、ベルリンの三大映画祭の各賞を制覇、その後の活躍が期待されるも96年に54歳で逝去。

ケシロフスキ短編3作品プログラム +『トーキング・ヘッズ2021』

11/21 ⑩ 10:30 11/23 ⑩(祝) 13:00 11/27 ⑩ 15:00
※4作品同時上映 ★ケシロフスキ3作品上映前に3分程度の解説動画付



ある夜警の視点から Z punktu widzenia nocnego portiera

監督:クシシュトフ・ケシロフスキ
1977年/ポーランド語/16分/モノクロ

ある監視員の日常を、彼自身へのインタビューと仕事ぶりを通してあぶり出す。官僚的な規則を盲信し、些細な罪も見逃さない彼の姿をカメラは客観的に捉え続ける。79年のクラクフ映画祭でグランプリを受賞。



異なる年齢の7人の女性 Siedem kobiet w różnym wieku

監督:クシシュトフ・ケシロフスキ
1978年/ポーランド語/16分/モノクロ

7人のパレエに関わる女性たちを、曜日ごと7つのシークエンスに区切って見つめる。レッスンに励むあどけない少女からベテランダンサー、さらにはパレエ学校の講師まで、様々な年齢の女性たちの肉体和表情。

今年で10回目となるポーランド映画祭。世界的な巨匠クシシュトフ・ケシロフスキ監督やアンジェイ・ワイダ監督の代表作から昨年各国の映画祭で話題となった新鋭ピョートル・ドマレフスキ監督の新作まで、バラエティに富むラインナップ。ぜひポーランド映画祭にお越しください。

ふたりのペロニカ 4Kデジタルリマスター版 Podwójne życie Weroniki

監督:クシシュトフ・ケシロフスキ
1991年/フランス語、ポーランド語/98分/カラー

ポーランドとフランス。ふたつの国に生きる、同じ容姿、才能を持ったふたりのペロニカ(イレーヌ・ジャコブ)を巡る数奇な運命の物語。ケシロフスキ監督の代表作として我が国でも高い人気を誇る本作が、4Kの美しい映像で甦る。カンヌ国際映画祭の女優賞、国際映画批評家連盟賞、全米批評家協会賞の外国語映画賞など多くの賞を受賞。



© 1991 SIDERAL PRODUCTIONS S.A.

11/21 ⑩ 12:20
11/23 ⑩(祝) 10:30
11/28 ⑩ 15:30
★上映前に3分程度の解説動画付

1980年代以降、その名を世界に知らしめたケシロフスキ監督は、60年代から多くの短編ドキュメンタリーを製作していました。その知られざる傑作群の中から3作品と、ケシロフスキにオマージュを捧げた意欲作を紹介します。



トーキング・ヘッズ Gadające głowy

監督:クシシュトフ・ケシロフスキ
1980年/ポーランド語/15分/モノクロ

「あなたは誰ですか?」「人生で何をしたいですか?」といった4つの質問を0歳から100歳までの人々に投げかける。激動の時代を迎えつつあったポーランドの人々が何を考え、何を頼りに生きているのかを如実に伝える貴重な記録。



トーキング・ヘッズ2021 Gadające głowy 2021

監督:ヤン・P・マトウシンスキ
2021年/ポーランド語他/23分/カラー

ケシロフスキによる約40年前の質問を再び問うオマージュ作品。出演はイレーヌ・ジャコブ、ジュリー・デルビーなどケシロフスキに縁のある人物を中心に、アトム・エゴヤン、アグニエシュカ・ホランドといった映画監督まで多岐にわたる。

イマジン Imagine

監督:アンジェイ・ヤキモフスキ
2012年/英語・仏語・ポルトガル語・独語
105分/カラー

美しいリスボンを舞台に描かれる、視覚障害者のための診療所で働く盲目の教師と引きこもりがちな美しい教え子の恋愛劇。研ぎすまされた音響設計と自然光を駆使した魅惑の映像美が静かな感動を呼び、主演は英国人俳優のエドワード・ホッグと『ラッシュ/ブライドと友情』(13)のアレクサンドラ・マリア・ララ。

11/21 ⑩ 16:00 11/28 ⑩ 13:00

スタニスワフ・レム生誕100年記念上映



Stanisław Lem 1963 © Lem.pl, fotografia wykorzystana w filmie Autor Solaris

スタニスワフ・レム Stanisław Lem

1921年、ポーランド領ルヴフ(現ウクライナ・リヴィウ)生まれ。父はユダヤ系の医師で、ナチス占領下では素性を隠し自動車工などをして生計を立てる。戦後医学を学び、在学中から雑誌に小説や詩を掲載。50年代から60年代にかけて地球外生命体とのコンタクトをテーマにした三部作『エデン』『ソラリス』『インヴィンシブル』などを発表、その後も精力的に活動し20世紀を代表するSF作家として君臨。2006年死去。

ソラリスの著者 Autor Solaris

監督:ボリス・ランコシュ
2016年/ポーランド語/56分/カラー

SF小説の金字塔「ソラリス」の著者スタニスワフ・レムの謎に挑むドキュメンタリー。ユダヤ知識人の家に生まれながらホロコーストを生き延び、SFの世界に新たな地平を切り開いたレムの生涯と作品に隠された秘密を探る。レムの遺した8ミリ映像、フィリップ・K・ディックの未公開書簡、レム自身の朗読音声も披露。

11/21 ⑩ 14:30 11/27 ⑩ 16:50
★レムについての配布資料有 ★上映前に3分程度の動画解説付



© Lem.pl, fotografia wykorzystana w filmie Autor Solaris

アンジェイ・ワイダ 没後5年

世界的な巨匠アンジェイ・ワイダ監督がこの世を去って5年。今なお次世代の映画監督たちに多大な影響を与え続ける彼のドキュメンタリーと代表作。

アンジェイ・ワイダ 私のインスピレーション Andrzej Wajda: Moje inspiracje

監督:マレク・プロブスキ、アンジェイ・ワイダ
2016年/ポーランド語・英語/62分/カラー



Courtesy of ECI Films, Fundacja Turul.

アンジェイ・ワイダ監督自身によるワイダ映画の神髄。彼にとって映画とは何か、そしてポーランドの絵画がシーン作りにどのような影響を与えたのか、その映画人生と演出の秘密を明かす。また若き日に『灰とダイヤモンド』を観て衝撃を受けたマーティン・スコセッシ監督がワイダ映画への思いを熱く語る。

11/20 ⑩ 10:30 11/23 ⑩(祝) 15:00 11/27 ⑩ 13:00
★11/20(土)上映前にウルシュラ・オズミツカさん(ポーランド広報文化センター所長)の挨拶があります。
★11/20、11/23、11/27 全ての上映後に久山宏一さん(ポーランド広報文化センター)の解説トーク付

ポーリッシュ・シネマ・ナウ!

私は決して泣かない Jak najdalej stąd

監督:ピョートル・ドマレフスキ
2020年/ポーランド語・英語/100分/カラー



© Piotr Domalewski / Aeon Studio

母と障害者の兄と暮らしているオラは自由奔放な17歳の少女。ある日アイランドに出稼ぎ中の父の訃報が届き、オラが遺体を引き取りに行くはめに、数々のアクシデントを乗り越え、彼女が最後に手にしたものは…。ひたすら前を向くタフなヒロイン像が眩しい青春映画。昨年の東京国際映画祭で上映され好評を博した。

11/20 ⑩ 15:30 11/28 ⑩ 10:30

ピョートル・ドマレフスキ Piotr Domalewski

1983年、ポーランドのウォムジャ生まれ。クラクフの演劇学校で演技を学んだ後、監督・脚本家としても活動を始め、いくつかの短編映画が高く評価される。17年、初の長編劇映画『クリスマスの夜に』でポーランド映画祭の作品賞、主演男優賞など多数の賞を受賞し、一躍注目を浴びる。最新作『ヒヤシンスの血』(2021)がNetflixにて配信中。



アンコール上映

アンジェイ・ヤキモフスキ Andrzej Jakimowski

1963年、ワルシャワ生まれ。ポーランド映画賞作品賞などに輝いた『目を細めて』(03)以降、『トリック』(07)でヴェネツィア国際映画祭エウロパ・シネマ・レーベル賞、東京国際映画祭最優秀男優賞、『イマジン』でワルシャワ国際映画祭監督賞を受賞するなど、現在のポーランド映画界を代表する監督のひとり。



FESTIWAL FILMÓW POLSKICH 2021